

深耕

## シニア消費

⑥

超高齢化社会の到来でシニアが増え、街や公園で1人寂しそうにしている男性シニアをよく見かける。定年退職後、仕事や趣味などを持たず、孤独になる人もいる。50歳までに一度も結婚したことのない人の割合を示す生涯未婚率は男性で23%、女性も14%（2011年国勢調査）もあり、单身者で家族や友達が少ないと孤独になりやすい。子育て後や伴侶の逝去後も孤独を感じがちだ。

英国では昨年、孤独担当大臣が誕生し、全世代に対策を行う。孤独を防ぐには社会参加が大切だ。活動意欲の高いシニアは仕事、趣

味、学び、社会貢献などの活動ができる。しかし、活動意欲が低く消極的なシニアが何もしないでいると、人との会話が減り健康への心配が高まる。その対策として、地域で気軽に参加できる「交流の場」が重要な役割を果たす。

そのため今、シニアが気軽に参加し、会話ができる交流の場づくりが求められている。方法は2通り。「気軽にシニアが交流できるお店・施設」と「シニアが集まり交流できる場」だ。

## 孤独解消へ交流の場作り

### シニアBIZ

## 心情寄り添い商機つかむ

トラン、居酒屋、バー、スロットカフェ・バーなどの飲食店やヘアサロン、ジムなどの運動施設、さらには運動施設、さらには浴場、病院を活用した交流会もある。喫茶には介護、

音楽、動物、歌声などを目的としたものがある。いざとなればシニアが気軽に訪れたくなるような居心地のよい空間にする。シニアの関心の場づくりは社会性が高い各種の健康測定器や

かりと準備してシニアの交流が元気になれば、健康寿命が延びることにつながる。（日本元気シニア総研顧問富田真司）



地域交流施設では健康管理に一役買うことで高齢者が訪れる意欲も高まる

の場自体を主催するものだ。健康、美容、読書、絵画などの趣味や娯楽、婚活などをテーマに、仲間を集めめる場を定期的・継続的に開催する。交流の場への参 加費や参加者への物販などが収入源となる。ただ、社会性は高いが収益を出すのが難しい面もある。

こうした交流の場をビジネスとして提供する際に留意すべきポイントを、シニアの目線から提案する。

1. シニアの心情にあたる対応を

2. 参加者の個別相談を

3. 開業する際にはしっかりと準備

して利用してもらつとともに、持続させることも重要だ。交流会や運営している現場をしっかりと見学すれば、運営者や参加者からの情報も役に立つ。

健康関連の書籍を用意する

と、利用頻度が高まる。さ

らに、幼児・子供や学生な

ど異世代との交流の場があ

ると、シニアの脳が活性化

され、運営者や参加者から

の場を定期的・継続的に開催する。交流の場への参

加費や参加者への物販など

が収入源となる。ただ、社

会性は高いが収益を出すの

が難しい面もある。

こうした交流の場をビジネスとして提供する際に留意すべきポイントを、シニアの目線から提案する。

1. シニアの心情にあたる対応を

2. 参加者の個別相談を

3. 開業する際にはしっかりと準備

してシニアが孤独から解放さ

れ元気になれば、健康寿命が延びることにつながる。

（日本元気シニア総研顧問富田真司）